

流れの
先に

毎日 元気ハツラツ!オロナミンC

旧吉野川の水が支える、確かなおいしさ



吉野川総合開発計画の実現により、吉野川の水は有効に使われるようになった。早明浦ダムをはじめとする吉野川上流のダム群によって、下流域の洪水被害を低減させる一方、生み出された水は、四国内の各地域で利用されている。

大塚製薬(株)と大塚食品(株)

今回は、吉野川下流部の第十樋門から分流した旧吉野川の水を利用している、大塚製薬(株)とその製品の一部の製造を担う、大塚食品(株)徳島工場を訪れた。

大塚製薬(株)は、大塚グループを代表する会社であり、創業の地が徳島県ということもあり、徳島市と鳴門市周辺にはグループの工場が集中している。大塚製薬(株)といえば、「オロナミンC」や「ポカリスエット」など多くの飲料や食品で有名だ。その代表的な製品の「オロナミンC」などは、隣の大塚食品(株)徳島工場で作られている。

水の重要性

こちらで使われる水は、旧吉野川河口堰と今切川(いまぎれがわ)河口堰により塩水の遡上を防ぎ、

安定取水できるようになった淡水を、吉野川北岸工業用水道を経て供給し、隣接する大塚化学(株)にて飲料基準を満たす水処理を行ったあと、ここ大塚食品(株)をはじめ大塚グループの工場に送水されている。

大塚食品(株)での「オロナミンC」の製造に使用する水の役割は多岐に渡り、特に飲料を瓶に充填する前の洗浄工程では、最も多くの水が使われているそうだ。冷たくした飲料を常温の瓶に充填すると、瓶の表面に結露が生じるので、その防止策としてお湯で温めているが、これらの水の一部は限られた資源を有効活用するために、工場内で



再使用されているとのこと。

取材にご協力頂いた大塚食品（株）松本生産本部長は、徳島工場での工場長時代を振り返り、「夏場に少雨傾向になると、早明浦ダムの貯水率は毎日欠かさずチェックしていました。それでも断水されることなく、安定して水が供給されることに感謝していました。」と語る。

オロナミンCは、ここ徳島工場の他に釧路工場と㈱大塚製薬工場の鳴門工場の3工場で製造されているが、安定し統一した品質を確保するためには水源選びを重視しているとのこと。



大塚食品（株）徳島工場全景（上部の川は今切川）

も行っており、地元徳島の振興に貢献している。

徳島へお越しの際は、是非、サッカー観戦や徳島劇場ツアーへの参加をお勧めしたい。

編集後記

今回の取材では、大塚製薬（株）様と大塚食品（株）様に多大なご支援、ご協力をいただきました。この場をお借りして、厚く御礼申し上げます。

（旧吉野川河口堰管理所）



取材にご協力頂いた大塚食品（株）松本生産本部長

徳島と大塚製薬（株）

大塚製薬（株）は、昨年サッカーJリーグJ1にて活躍した徳島ヴォルティスのメインスポンサーであり、同チームは鳴門市にあるポカリスエットスタジアムをホームグラウンドとしている。

また、大塚製薬（株）および大塚食品（株）徳島工場では工場見学を受入れているほか、「徳島劇場」と題して、大塚製薬（株）能力研究開発所や、世界で初めて歴史的絵画を陶板に忠実に再現した大塚国際美術館など、一連の施設を見学するツアー

読者プレゼント

「オロナミンC 10本入り」10名様

取材にご協力いただいた大塚製薬（株）様のご厚意により、読者の方10名にプレゼントを頂きました。ご希望の方は、①住所②氏名③性別④年齢⑤電話番号⑥このコーナーを含む本誌の感想を記入の上、ハガキにて下記までお申し込みください。



■宛先 〒330-6008

さいたま市中央区新都心11番地2

独立行政法人水資源機構広報課 広報誌係

■応募締切 平成27年6月30日（消印有効）

※当選者の発表は、プレゼントの発送をもってかえさせていただきます。いただいた個人情報の目的以外利用はいたしません。